＜福島県教育長賞＞

「税金に対しての気持ち」

喜多方市立第二中学校　３年　大塚　怜佳

私の親は経営者で、よく家でお店の計算をしているのを見たことがあります。親に質問してみると、税金の分を計算していると言われました。私は税金のことを、買い物をする時などに本当の値段より少しだけ多く払わなければいけない「国のお金」だと、なんとなく思っていて、少し否定的に思ってしまうことがありました。ですが、それからの私の学んだ知識や経験で、考え方が大きく変わりました。

私は約１ヶ月間フィリピンに滞在したことがあります。日本とフィリピンでは違いが多く、それぞれの国の文化の違いを感じさせられました。フィリピンでの税金は、薬が処方される際に使われておらず、料金がとても高額だったり、救急車を利用した時などは全額自己負担な場合が多くありました。学校では、教科書やエアコンなどの整備品、学校の校舎までもが税金によって支払われていることを知り、私はこのことを知った時から、税金に感謝の気持ちを持つようになり、深く考えるようになりました。先ほど話したフィリピンでの事のように、それぞれの国に良さがあるけれど、日本の税金はとても尊いものだと私は思います。普段使っている教科書や机や椅子、病院に行って薬をもらってもお金がかからなかった理由が、大人の皆さんが必死に働いて稼いだお金の一部だということ、いつものように買い物をした時のお金の一部だということ。このような大切で当たり前の様なことが、すなわち自分の為になっていたことに私は、改めて

働いて自分でお金を稼ぐことの大切さを理解しました。これからは、その様なものや事に対して、感謝の気持ちを忘れず、身近な物を大切に扱えるように、もし税金が無かった、もしくはそれらの事に使われていなかった事を考え、今この状況がどれほど幸せなものなのかを理解した上で行動に移して生活していきたいと思います。私も働く年になったら、国の為、そして未来の自分の為に働いてお金を稼ぎ、国に税金を納められるように、今からできることを頑張り、自分の将来へと繋いでいけるよう努力を怠らないようにして勉強などに力を入れられるようにしたいです。